

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

昭和北中学校区 校番 22 学校名 呉市立昭和西小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的な学びを通して、積極的にコミュニケーションを図る児童を育成する。	基礎的・基本的な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学力に課題がある児童の割合は、国語科5.0%、算数科11.2%であった。【中間 国語科7.7%、算数科12.1%】 国語科においては、週に1回、全学年で読み取りの問題を家庭学習で行い、朝学習の時間に解説を行うことを継続したことが、基礎学力の定着に大きな成果をもたらした。 算数科においては、校内でQubenaの活用の徹底を図った。しかし、課題のある児童にとって負担となる面があり、活用方法を見直す必要がある。 授業の終末に「まとめ」や「振り返り」の時間を確保することで、教師は児童一人一人の学びを見取ることができた。また、児童に学びの定着を図ることができた。 学力の定着が困難な児童は固定化しており、学年が上がると、人数が増える傾向にある。やはり、中・高学年になると、前学年までのつまずきが複雑化することが新たな学習内容の定着をより難しくしていると考ええる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科においては、家庭学習で週に1回読み取りの問題に取り組み、朝学習で解説をする取組を継続する。 算数科においては、レディネステストや終末の振り返り、Qubena等でつまずきを把握するとともに、弱い部分の問題を反復練習することで、知識の定着を図り、達成感を味わえるようにする。 課題のある各教科の領域や課題が見られる児童の指導方法を校内で共有し、連携を図る。 ICTの活用について、校内で研修を行い、教員一人一人の指導力向上に努める。
		自ら積極的にコミュニケーションを図る児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 短期経営目標に対する児童の割合は87.5%であった。 児童が考えを書いたり発言したりする場を確保したり、自分の考えを出しやすい環境を整えたりすることで一定の効果が見られた。そのため、進んで自分の考えを書いたり発表したりしていると感じる児童の割合は85%と昨年度より高くなった。 教師が「単元を貫く問い」を意識した授業を徹底し、児童が単元の見通しや学ぶ必要性をもって学習に取り組む手立てをしたことが、主体的に学ぶ力の育成につながっている。 学年間で実践交流を行うことで、学年の成果と課題が共有された。しかし、学校全体で計画的に交流を行う時間の確保が難しかったため、教職員全体で改善の見直しをもつことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「課題探求的な学習」や「単元で付けたい力を明確にした授業」の研修を定期的に行うとともに、研修後の実践を記録としてデータで残し、全体で共有していく。 話し合いの場の工夫や時間の確保を引き続き行い、児童が発言する機会をできるだけ多く設定する。 発表回数や発言内容に対する肯定的評価や評価の可視化を行い、発表に対する前向きな姿勢と意欲の向上を図り続ける。
豊かな心	社会性を涵養するとともに自己有用感を養う。	道徳的実践力の育成を通して自己有用感を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで、「自分にはよいところがある」児童の割合は86.3%、「自分は役に立っている」児童の割合は84.9%であった。 教員アンケートで、「自己有用感を高める取組をしている」割合は100%、「日頃から肯定的な声かけをしている」割合は100%であった。 行事後の学年をこえた認め合いや、クラス内での認め合い、教師の肯定的な声かけにより、どのクラスも中間より肯定的評価が上昇した。自己有用感の低い児童が固定化していることが課題である。 1.2年生の社会見学、学習発表会の鑑賞、2.3年生の学習内容の交流など、各学年工夫して異学年交流を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスで行った認め合いについて、実践を交流する場を設け、職員が取組を共有していく。 たてわり班そうじでは、担当の児童の頑張りをしっかりと評価していき、色々な先生から認められる場を設けていく。 児童が主体的に活動できる係活動の工夫を行う。また、定期的に係活動の振り返りを行う。
		規範意識を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の生活目標ができていない児童は、92%であった。 生活目標に対して、各クラスに合った取組を考えることで、意欲的に取り組むことができた。西小のいびりコーナーの掲示をしたり、計画委員会の放送をしたりすることで、生活目標を守ろうという意識付けになった。 「黙々掃除ができていない」児童の割合は95%、教師の割合は100%であった。 2学期はもくもく掃除に加え、プラス1そうじを意識させた。児童同士でアドバイスさせ合うことで、時間いっぱいそうじをしようという意識が高まった。しかし、掃除時間、課題のある児童への対応ができていない実態がある。 トイレのスリッパそろえは、足形のマークを作成し視覚支援を行ったことで、散乱することが少なくなった。しかし、廊下歩行がなかなか徹底できない実態がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活目標のチェック表を作成し、帰りの会等で振り返りを行っていく。目に見える形で結果を残していき、自信につなげていく。 引き続き、プラス1掃除を続けていき、時間いっぱい掃除をすることを意識させていく。また、課題のある児童については、連絡会議等で共有し、連携を図る。 廊下、階段など児童の目に付きやすいところにポスターを掲示していく。
健康な体	健康な体をつくり自分の命は自分で守る力を身に付ける。	体力・運動能力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 6月の新体力テストで課題となった握力とソフトボール投げを重点的に取り組み、12月に再度測定を行った。昨年度6月の平均値より下回った児童の割合は、握力・ソフトボール投げともに48%であった。今年度6月に測定した時よりも記録が伸びた児童は、握力が全体の50%、ソフトボール投げが全体の33%であった。2学期に種目を絞って重点的に取組を行ったことで記録が伸びた児童が増えたと考ええる。 くれ・チャレンジマッチで、全学年取り組むことができた。順位表を掲示することで、児童の意欲も高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 投の運動や握力をつけることにつながる運動を、これからも継続的に行う。(毎時間の体育ではじめにサーキットを行い、習慣化する。) くれ・チャレンジマッチでは、運動委員会が作成した順位表を掲示し、10位以内に入ることを目標として掲げ、意欲をもって取り組むことができるようにする。また、来年度は4月から定期的に取り組むことができるように教職員に周知していく。
		災害や交通事故から自分の命を守る意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 地域で起こりやすい災害について知っているや避難場所を知っている児童は全校で約90%。2年生以上はほぼ目標値を達成しているが、呉市で目指すのは100%のため、まだ十分とはいえない。 4年生は2学期に総合的な学習の時間で防災について取組を行い、学習発表会で発表したことで防災に対する意識が高まったと考えられる。学校全体では、各クラス防災について保健指導を行い、各家庭にほけんだよりを配付し、学校での取組を知らせることができた。 家庭で防災について話している割合が60%と中間と同様低い結果となった。学校で行った取組等を通信で知らせることはしているが、家庭で話す機会とはなっていないようである。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の時、事前に災害についてタブレットで動画やスライドを視聴して学習を行った。言葉だけでなく、映像を見ることで低学年もイメージをもつことができたので今後も続けていく。 「土砂災害対応携帯マニュアル」「ひろしまマイ・タイムライン」の活用方法について、今年度は外部講師の依頼をした。より有効活用できるよう、来年度も計画をしていく。 家庭に「ひろしまマイ・タイムライン」を持ち帰って取り組んだり、学校で行った防災教育について家庭で話をした後、一言感想をもらう等をしてしりて、家庭で防災について話すきっかけ作りを行っていく。
業務改善	持続可能な教育環境を整備する。	長時間勤務を削減する。	<ul style="list-style-type: none"> 業務の見直しを進めてはいるが、45時間を超えなかった教職員9月60.0%、10月60.0%、11月65.0%、12月65.0%と、十分な改善ができていない。 目標達成はできなかったが、昨年度同時期と比較すると約10ポイント以上、改善傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主任を中心とした組織的な人材育成を継続して推進し、職員の主体性を活かした業務改善を進める。 来年度への引継ぎを意識して、分掌の連携を強化し、組織力を高める。